

ふじのくに

伝 統 芸 能

フェスティバル

入場
無料

今、地域の芸能を
次世代につなぐために

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、出演者及び来場者の安全を考慮し、出演辞退や映像での紹介になる場合がありますので予めご了承ください。

特別出演

◆ 大鼓芸能集団 鼓童
(天鼓・新潟県佐渡市)



[司会]
久保ひとみ



[コメンテーター]
岩下尚史

◆ 静岡県立駿河総合高等学校 和太鼓部
(和太鼓)

◆ 横尾歌舞伎保存会
(横尾歌舞伎)

◆ 西嶋神楽団
(西島の神楽・山梨県身延町)

◆ 湯川鹿島踊
(湯川鹿島踊)

◆ 伊東市湯川自治会
(伊東市湯川)

◆ 伊豆の国市田京区
(田京二番叟)

◆ 富士宮囃子保存会
(富士宮囃子)

出演

入場無料 事前申込制 4月1日より受付開始

[申込み方法]

- TEL、WEBフォームからお申し込みください。
- TELの方は [お名前・住所・電話番号・参加人数] をお知らせください。

TEL **グランシップチケットセンター** 054-289-9000 (10:00~18:30)
長泉町文化センター 055-989-0001 (9:00~20:00)

WEBフォーム <https://www.granship.or.jp/entryform/> >>>>

受付後、入場券をお送りいたしますので当日必ずお持ちください。
※車椅子でご来場の方は、お申込み時にお知らせください。



新型コロナウイルス感染症についての対策は、裏面の【お客様へのお願い】をご覧ください。

2021年 6月6日(日) 14:00開演(13:30開場/16:00終演予定)

長泉町文化センターベルフォーレ
(JR御殿場線下土狩駅より徒歩12分、JR三島駅北口よりタクシーで7分)
静岡県駿東郡長泉町下土狩821-1



ふじのくに 伝統芸能フェスティバル

～今、地域の芸能を次世代につなぐために～

静岡県文化プログラムとして、2019年3月から全3回のプログラムとして開催している「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」。集大成として2020年5月に予定していた3回目は、新型コロナウイルスの影響により実施できず、7月に延期を計画しましたが叶わずに約1年の延期で長泉町で開催することになりました。

日本には室町時代から残る能楽をはじめとして、各地で多彩な芸能が生まれてきました。それぞれの地域に信仰として息づいているものから、興行として行われている芸能まで様々な形態で今なお発展しています。とりわけ、各地域で世代から世代へと伝承される民俗芸能は過疎化や少子化などの各課題を抱えながらも、地域に暮らす人たちの努力によって伝統が続いてきました。しかしながら、短期間でこれまでの日常を一変させたコロナ禍においては、小さなコミュニティでの活動さえ停止せざるを得ない状況に陥りました。この状況下により、これまでの課題がより明確化し、様々な危機感が迫る中、地域の芸能団体はこれからの活動について模索しながらも、次世代への芸能の継承に思いを強くしています。

今回は、県内外の各地域で活動している多彩な芸能団体を実演を交えて紹介。地域のお祭りなどが中止される中、その活動を知ることができる特別な機会です。

また、静岡で和太鼓に取り組む高校生のために、世界的に活躍する「鼓童」がオリジナル曲を創作。未来に向けて、日本の芸能を受け継ぐ高校生と鼓童の共演にもご期待ください。



■ コメンテーター／岩下尚史

作家。國學院大学客員教授。新橋演舞場(備)退社後、芸者の発生と変遷について著した「芸者論」にて、新人としては異例の第二十回和辻哲郎文化賞を受賞し、本格的な作家活動を開始。その他、三島由紀夫の恋人への取材を基に書き下ろした「見出された恋」、「ヒタマン」などの著作がある。また、日本の伝承芸能や古典的な暮らしについてのエッセイ等も多数著している。現在、季刊「美しいキモノ」(ハースト婦人画報社)、「オトナの金沢」(北國新聞)にてエッセイを連載中。また、新刊発表に向け、鋭意執筆中。グランシップマガジン内コラム「伝統芸は知るものではなく、身につけるもの。」も好評連載中。



■ 司会／久保ひとみ

浜松市出身。テレビやラジオのレギュラー番組、CMなど多数出演し、タレント活動歴は23年以上。明るく親しみやすいキャラクターで「静岡の元気印」として県内での知名度は抜群。



【交通アクセス】

- JR御殿場線下土狩駅より徒歩12分
- JR三島駅北口よりタクシーで7分
- 東名高速道路沼津ICより約12分、新東名長泉沼津ICより約12分
- JR三島駅南口から富士急シティバス「長泉中央保育園」下車(250円)徒歩3分

車椅子でご来場の方は、お申込み時にお知らせください。



富士宮囃子保存会

富士宮市

「富士宮囃子」は浅間大社を氏神・守り神として信仰する氏子により育まれてきた奉納囃子である。浅間大社秋季例祭に20の氏子町内が祭り囃子を賑やかに囃しながら山車や屋台を引き回す。保存会は静岡県指定無形民俗文化財の指定の受け皿となるために発足し、複数の町内をまとめて保存・伝承に取り組んでいる。(静岡県指定無形民俗文化財)



伊豆の国市田京区

伊豆の国市

伊豆の国市内では毎年秋に五穀豊穡を願い、5ヶ所の神社で三番叟が奉納される。伊豆半島には、多くの三番叟が伝承されており、人が演じるものと人形を用いるものに大別されるが、伊豆の国市の三番叟はいずれも人が演じるものである。三番叟は、神輿や山車の巡行とともに、各神社の秋の例大祭の中核をなす芸能であり、地域の信仰やコミュニティ形成を考える上で、重要な役割を担っている。かつては地区の青年団が継承の主体であったが、現在は自治組織としての田京区がその役割を担っている。



伊東市湯川自治会

伊東市

「鹿島踊」は相模湾沿岸、千葉県域に分布する民俗舞踊である。歌に合わせて、鳥帽子に白装束の踊り手たちが、太鼓、鉦、幣束などを手にし、方形、円形と変化しながら踊る。踊りの持つ柄杓からこぼれ落ちる紙吹雪状の色紙は、稲を表し五穀豊穡と厄払いの祈願を表している。その由来等については諸説あるが、伊東市内では湯川地区の他に5つの地区に伝承され、海上の安全祈願や供養をはじめとする地域の信仰を象徴する芸能として大切に伝承されている。湯川地区では自治会が祭りの主体を担い、鹿島踊の保存・継承活動を行っている。(伊東市指定無形民俗文化財)



西嶋神楽団

山梨県身延町

西嶋神楽の起源は武田信玄滅亡の頃、戦禍と水害等で悲劇にくれる里人の意気を神楽により興し、御霊鎮めをしようと鎮守の神主たちによって始められたことが起源とされる。大正10年に古くから呼ばれた神楽衆、神楽講から「西嶋神楽団」と改称し、昭和39年に山梨県指定無形民俗文化財に指定される。団の主力構成が高齢化する中で、積極的に県内外の公演に出演し、西嶋神楽の伝承に取り組んでいる。(山梨県指定無形民俗文化財)



横尾歌舞伎保存会

浜松市

浜松市北区引佐町横尾に200年以上前の江戸時代より伝わる農村歌舞伎である。横尾の八柱神社、白岩の六所神社の祭礼の余興として始まったとされ、役者、義太夫、三味線弾きをはじめ、舞台、大道具や小道具等に至るまで、すべて地域の人々の手でまかなわれている。毎年秋には引佐町横尾の開明座で定期公演が続けられている。保存会では、質の高い技を若者に引き継ぐため、小学生が参加する横尾歌舞伎少年団を組織したり、小中学生によって構成される少年少女三味線教室でプロの師匠を招く等継承活動にも力を入れている。(静岡県指定無形民俗文化財)



静岡県立駿河総合高等学校 和太鼓部

静岡市

平成24年に旧静岡市立商業高校と旧静岡県立静岡南高校が統合して新設され、「音楽としての和太鼓」を大切に、日々稽古に励む。「自ら考え、主体的に活動すること」をモットーに、多くの人々に和太鼓の面白さや奥深さを伝えるため、年間を通じて積極的な公演活動を県内外で行っている。



太鼓芸能集団 鼓童

新潟県佐渡市

太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能に無限の可能性を見だし、現代への再創造を試みる集団。1981年ベルリン芸術祭でデビュー。以来52の国と地域で6,500回を超える公演を行う。ジャズ、ロック、ダンスなど異なるジャンルの優れたアーティストとの共演や、世界の主要な国際芸術祭、映画音楽等へ多数参加。近年は初音ミクのコラボレーションをはじめ、坂東玉三郎との「幽玄」での共演や「フジロックフェスティバル'18」への参加など幅広い活動を行なっている。2019年はラグビーワールドカップ開会式、国立競技場のオープニングイベントにも参加。2021年に創立40周年を迎える。

※出演者は変更または映像等での出演になる場合があります。



新型コロナウイルス感染症について 【お客様へのお願い】

- 発熱または風邪症状のある方は、ご来場をお控えください。
- ソーシャルディスタンス確保のため、座席の間を空けてお座りいただきます。
- マスク着用、検温、手指のアルコール消毒にご協力ください。
- 会場内では会話を控え、出演者等との面会等はご遠慮いただきます。
- 掲載の出演者等は2021年2月現在の情報です。新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、出演者の変更や映像出演になる場合があります。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、本公演を変更中止する場合や、[お客様へのお願い]の内容を変更する場合がありますので、必ずグランシップホームページで最新情報をご確認の上、ご来場ください。